

豪州準備銀行の声明文は国内景気と雇用が焦点

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利を1.50%で据え置く決定を下す。声明文では国内景気と雇用に関する言及に変化。
- 資源開発ブーム後の資源投資削減の動きは概ね完了。事業環境改善などから非資源分野の設備投資が上向きに。
- 豪州の1-3月期GDPの減速の可能性を認めながら、RBAでは向こう2~3年で3%超への経済成長率の上昇を予想。
- 雇用環境は引き続き強弱入り乱れる。今後は企業収益の改善が賃上げや労働時間拡大に繋がるかが焦点に。

RBAは9会合連続の政策金利据え置きを決定

豪州準備銀行(RBA)は6月6日の金融政策理事会で、政策金利を1.50%で据え置く決定を下しました(図1)。

ロウ総裁の声明文では、海外景気に関して「幅広い景気拡大が広がっている」との従来通りの言及が示された一方、国内景気と雇用に関する言及に変化がみられました。

資源開発ブーム後の資源投資削減は概ね完了

豪州景気に関しては、資源開発ブーム後の資源投資削減の動きは概ね完了しており、事業環境改善や設備稼働率上昇などを背景に、非資源分野の設備投資が上向いてきたとの判断が示されました。

また、6月7日に公表される豪州の1-3月期GDPは前年比での成長減速となる公算が高いことを認めながら、RBAでは引き続き向こう2~3年で3%超への経済成長率の上昇を予想しているとの見方が示されました。

雇用は堅調な一方、労働時間や賃金上昇に弱さ

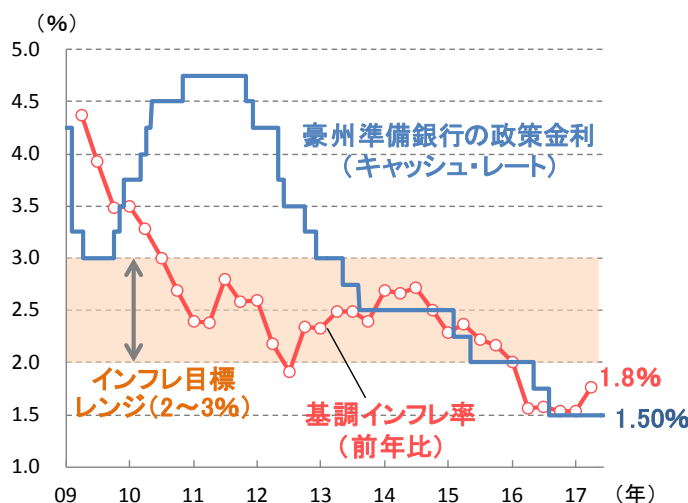
豪州の雇用環境に関しては、声明文では依然として強弱が入り乱れているとの判断が示されました。最近数か月は雇用者数の伸びが堅調なもの、労働時間や賃金上昇の面で弱さがみられるとの言及がなされました。

企業収益改善が賃上げに波及するかが焦点に

豪州政府統計局(ABS)の統計によれば、2017年1-3月期の豪州企業の営業利益は前年比+39.7%へ大きく改善し、非資源セクターの営業利益も前年比+16.8%へ底堅い伸びを示しました(図2)。

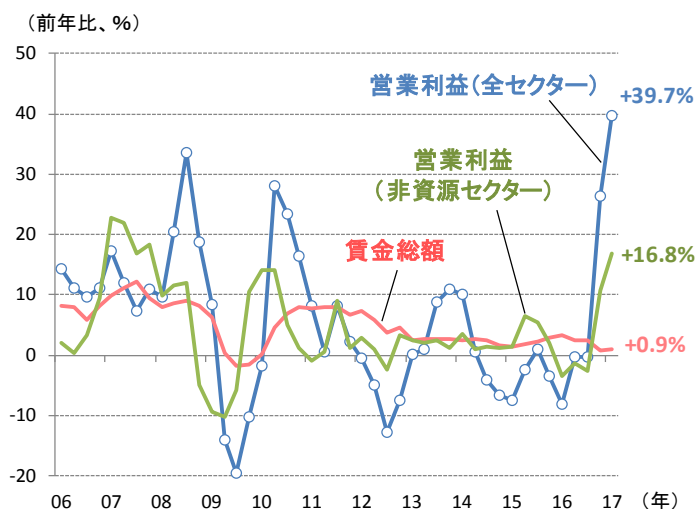
一方、1-3月期の賃金総額は前年比+0.9%と低調な伸びが続いています。企業収益の改善が賃金引き上げや労働時間の拡大に波及するかが、今後のRBAの金融政策の方向性を左右する焦点となりそうです。

図1：豪州準備銀行(RBA)の政策金利とインフレ率



(出所)豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)
 (期間)基調インフレ率:2009年1-3月期～2017年1-3月期
 政策金利:2009年1月1日～2017年6月6日
 (注)基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。

図2：豪州の企業収益と賃金総額の推移



(出所)ABS (期間)2006年1-3月～2017年1-3月